



世田谷区の歴史文化を後世へ継承する 世田谷区立郷土資料館

通称ボロ市通り沿い、世田谷代官屋敷の敷地内に建つ世田谷区立郷土資料館。郷土の貴重な文化財を後世に受け継ぎ、区民の教養の向上及び教育、学術研究などに資することを目的に、世田谷区に関する歴史・民俗資料などを収集保管し、展示、講座の開催等の形で広く一般公開しています。設備改修工事による休館を経て、今年8月、装いを新たに再開館しました。

◆代官屋敷の敷地内に建てられた都内最初の公立地域博物館

区制30周年記念事業として
昭和39(1964)年に開館

狭くなったことから、昭和62(1987)年に新館を増築し、現在に至っています。

世田谷区立郷土資料館は、区制30周年記念事業の一環として、昭和39(1964)年9月10日に開館した都内最初の公立地域博物館です。昭和37(1962)年に世田谷区が発行した『新修世田谷区史』の編纂を契機として、区内外における世田谷区に関する歴史・民俗資料等を収集保存し、その散逸を防ぐとともに、これらの資料を整理、調査研究し、その成果を広く一般に公開して社会教育の一端として役立たせ、文化財の知識を普及することを目的として設立しました。その後、

当館は、江戸時代中期以来、彦根藩世田谷領20カ村の代官を世襲した大場家の役宅「世田谷代官屋敷」(国指定重要文化財・都指定史跡)の敷地内に、一般財団法人大場代官屋敷保存会の協力により土地の無償貸付という形で建てられています。資料館内には世田谷代官屋敷について紹介するコーナーがあり、また小学校の社会科見学などで代官屋敷を訪れる児童・生徒に対して、当館の学芸員が解説を行う連携対応も行っていきます(事前予約制)。

世田谷区立郷土資料館・世田谷代官屋敷

- 住所：世田谷区世田谷1-29-18
- TEL：03-3429-4237
- 開館時間：9時～16時30分。「せたがやホテル祭り」と「サギ草市」(7月)と「世田谷のボロ市」(12月15・16日、1月15・16日)開催日は、行事終了時刻まで開館します。
- 休館日：毎週月曜日・祝日(月曜日が祝日の場合は翌日も)、年末年始
- 入館料：無料
- 世田谷区ホームページ
<https://www.city.setagaya.lg.jp/mokuji/kusei/012/011/002/d00138265.html>



東急世田谷線「上町」駅、東急バス・小田急バス「上町」バス停下車徒歩5分

世田谷デジタルミュージアム

- 世田谷区内の文化財や関連資料をデジタルアーカイブ化した、誰もが気軽に貴重な文化財に触れることができるサイトです。郷土資料館で収蔵している文化財も一部ご覧になれます。
- <https://setagayadigitalmuseum.jp>



世田谷区内の歴史資料等を 収集し、保存及び展示する

郷土資料館の主な事業は、区内の歴史資料（出土品、古文書、美術品、民俗資料等）を収集し、または寄贈もしくは寄託を受けて、これを保存及び展示することです。歴史資料には区内の遺跡から発掘された出土品のほか、区民の方から寄贈いただいた江戸時代や明治時代の古文書、農具などもあります。東京23区の南西部に位置する世田谷区は、もともとは農村地帯で何代も続く旧家が多く、関東大震災や第二次世界大戦の被害も少なかったことなどから、各家の蔵などにこれらの歴史資料が残っていることがあります。

寄贈のお話をいただいた歴史資料は、まず受け入れるかどうかを精査し、受け入れが決まったら1点1点目録を作って整理します。整理した後、収蔵庫で大切に保存しますが、一部の資料は展示などで利用しています。歴史資料の整理業務は表立ってはいませんが、郷土資料館の事業の重要な部分を占めています。

ワークショップや講演会等 さまざまな講座を開催

郷土資料館では、世田谷の歴史や文化を深く知っていただくため、世田谷区内在住・在勤・在学の方を対象にさまざまなテーマの講座を開催しています。夏休みには小学生を対象としたワークショップを開き、令和3年度は和紙を使った「折り染めミニかけ軸作り」、今年度は千代紙とスタンプで、物語風に作品を仕立てる「絵巻物をつくろう」を行いました。9月24日には、8月1日から10月22日まで開催している重要文化財保存処理完了記念「野毛大塚古墳展」の記念講演会を開催しました。

今後は、10月28日から12月28日までの特別展「館藏品で見る 宗教美術の造形―仏教美術を中心に―」開催期間中に大学教授を招いての特別展記念講演、12月上旬に学芸員による民俗学講座、年明けには歴史講座「近世文書解読入門」（全4回×2）や美術史講座（全4回）を企画しています。

ワークショップや講座の開催が、親子連れや、今まで郷土資料館に来たことのない人が資料館に足を運ぶ

きっかけになればと考えています。

学芸員の案内で区内を歩く 野外歴史教室

座学の講座のほかに、区内の社寺や史跡をめぐる野外歴史教室を開催しています。学芸員がコースを設定し、所要所で歴史的な説明をしながら3時間ほどかけて歩く、まち歩きの講座です。平日の開催にもかかわらず、毎回応募者が定員の3倍になるほどの人気です。参加者からは、「長く住んでいるが、解説を聞いて初めて知った。」といった声も寄せられています。

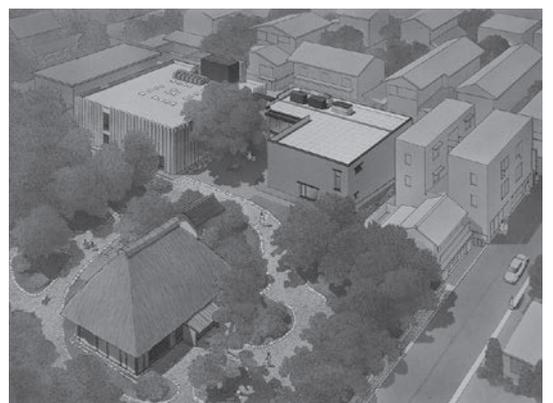
世田谷区には歴史のある社寺や史跡が多く、まち歩きができるコースもたくさんあります。これまでに大田区田園調布から世田谷区野毛にかけて国分寺崖線沿いに複数の古墳が点在する荏原台古墳群を歩くコースや、世田谷吉良氏ゆかりの地をめぐるコースなどを実施しました。今年11月には世田谷緑の三軒茶屋を起点に世田谷山観音寺、軍事遺跡「陸軍野砲兵第一連隊兵営跡」など下馬の地域をめぐる野外歴史教室を開催する予定です。



世田谷代官屋敷



世田谷区立郷土資料館



世田谷区立郷土資料館俯瞰図
(昭和62年 前川國男建築設計事務所)

◆設備改修工事による1年4カ月の休館を経て、常設展示も新たに再開館

設備の老朽化改善のため 電気設備や機械設備を更新

当館開館後、本館は60年近く、新館は35年が経過し、設備の老朽化が顕著になってきたことから、安定的な運営を確保するために、令和4年4月1日から令和5年7月31日まで休館し、電気設備や機械設備の更新を主とする大規模な改修工事を実施しました。機械設備では、館内の空調設備をはじめ、消火設備、給水設備、排水設備を大幅に更新。電気設備では、館内の照明を全面的にLED化して維持管理コストを削減しました。

本館と新館の2階の壁面展示ケースは、内装改修と照明LED化により、展示環境の改善を図りました。また、展示ケース内の照明は、調光・調色機能を充実させ、展示における演出を多彩にすることが可能となりました。

土層柱状図を設置し 時代順にわかりやすく展示

当館では改修工事後の再開館にあわせて、常設展示をリニューアルし

た。展示は旧石器時代から近現代まで、時代順に世田谷の歴史と文化を辿る形ですが、時代の流れをより理解しやすくするために、本館1階入口付近の吹き抜け部分の壁面に高さ約4・8メートルの土層柱状図（土の中から発掘された出土品を時代とともに模式化した図）を設置しました。ここから旧石器、縄文、弥生…と、時代ごとの

コーナーを巡りますが、土層柱状図の中にあった出土品を各コーナーの展示の中から見つける楽しみもあります。

戦後から高度成長期までの 展示スペースを拡大

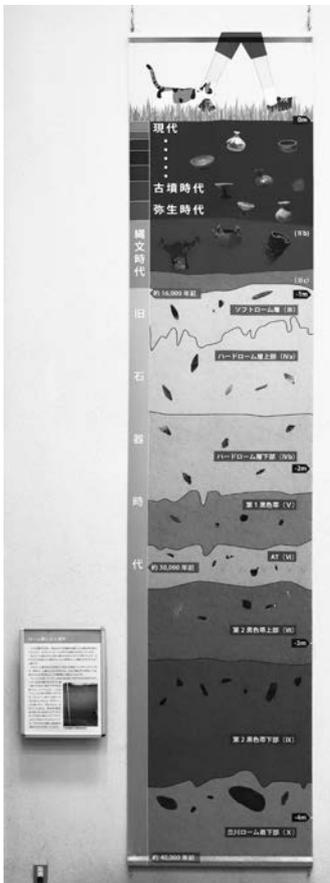
旧石器時代から現代までの出土品や古文書等の展示はリニューアル前から充実していました。第二次世界大戦後から高度経済成長期までの展示が少なかったため、今回大幅に展示スペースを増やしました。当館では年間約30校の小学校の社会科学見学を受け入れており、学校側から学習内容として電気・水道・ガスが整備される前の暮らしの道具や世田谷の様子の子の移り変わりについても触れてほしいという要望があったことも理由の一つで

す。ポップアップトースター、保温機能付電気釜、プラスチック製扇風機などの家電製品を中心に展示しています。

世田谷の生活文化と 美術に関する展示を新設

今回のリニューアルで新設したのは、新館2階の「民俗」と「美術」のコーナーです。「民俗」とは人々が生活の中において生み出し、継承してきた衣食住や慣習、生業、信仰、年中行事及びこれらに用いられる衣服や道具など生活の変化を示すもので、神社のお札、世田谷の名産・大蔵大根のレプリカなどを展示。また「民俗」のコーナーには、「洗濯の道具」など、子ども向けにテーマを決めた小さな企画展示もあります。「美術」のコーナーでは、江戸時代から現代までの世田谷にゆかりのある画家や文人の作品や史料、

区内の旧家や社寺に伝わる文芸作品などを展示しています。



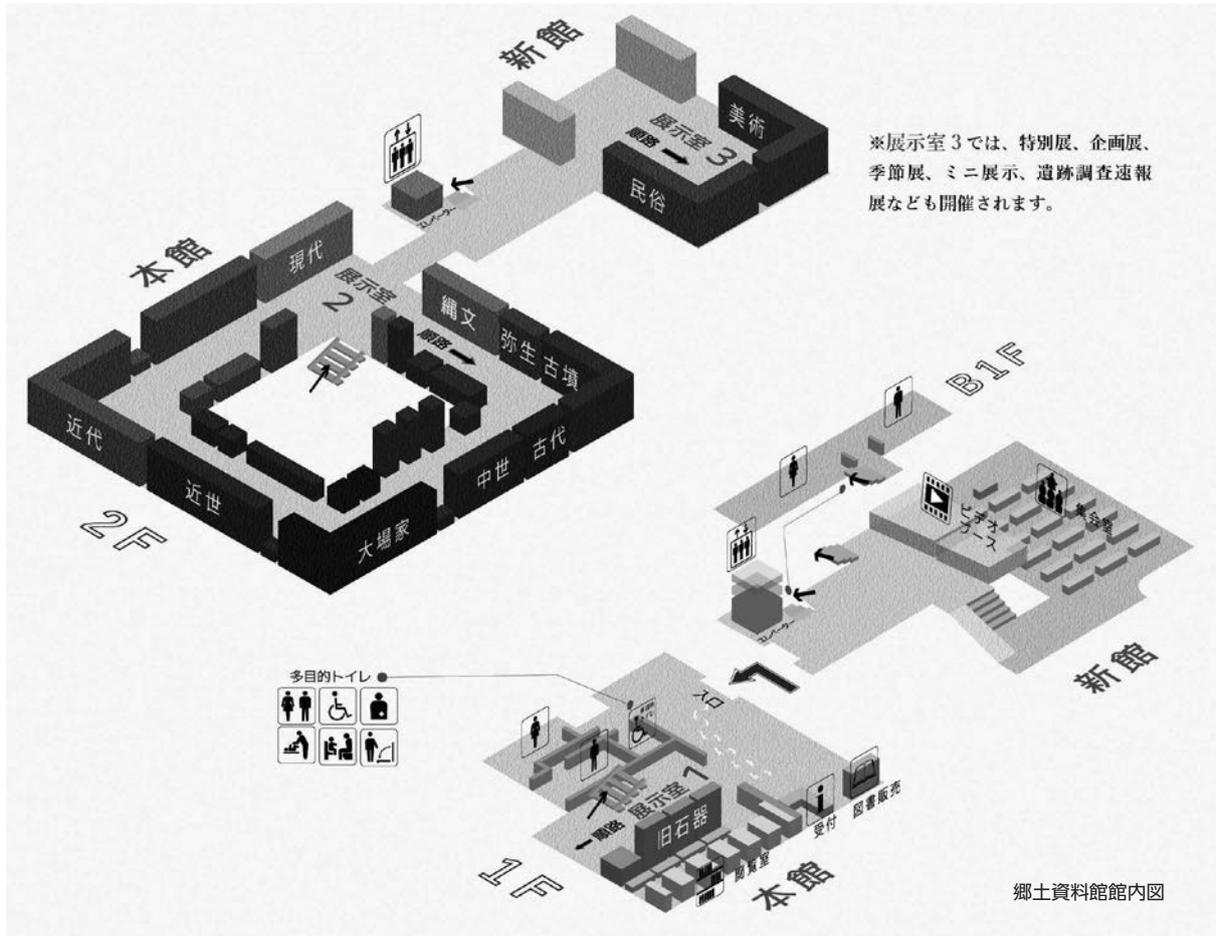
世田谷区の地層を
図にした土層柱状図



触って遊びながら学べる
「体験コーナー」



改修工事を機に
リニューアルした常設展示



郷土資料館館内図

実際に触って展示に親しむ

念頭に置き、来館者が展示に親しむきっかけになればとの思いから設けたコーナーです。

手に取って遊びながら学べる「体験コーナー」も新設しました。展示品を見るだけでなく、出土した石器に使われている石材に実際に触れてみる、パズルを組み合わせて縄文土器の形を作るなどの体験ができます。「将来を担う世代が世田谷の歴史と文化への理解ができるように工夫を凝らす」ことを目指しています。

8月の再開館以来、当館への来館者が増えています。これを一過性にしないためにも、今後も展示の工夫をはじめ、講座など展示以外の事業の充実、収蔵資料の徹底した保存・保管と活用、インターネットによる発信等、さまざまな課題に取り組んでいきたいと思っています。

リニューアル記念展示第1弾

重要文化財保存処理完了記念「野毛大塚古墳展」

野毛大塚古墳は国分寺崖線上の高台、上野毛から尾山台にかけて広がる野毛古墳群のなかで最大規模の古墳です。出土品は、古墳時代中期の東日本を代表する資料で、畿内の中央政権と東国の関係を示す貴重なものとして、平成28(2016)年に国の重要文化財に指定されています。出土品の保存処理は出土した際に行われていたのですが、経年劣化は避けられません。世田谷区立郷土資料館では平成30年度から令和4年度にかけての5か年計画で、再処理という形で保存修復処理事業を行いました。

この保存処理完了を記念して、8月1日から10月22日まで「野毛大塚古墳展」を開催しています。展示では、保存修復処理に着目し、それぞれの出土品の横にパネルを配して修復の際に使用した薬剤の名称や修復の仕方等を詳しく説明しています。この機会に、出土品だけではなく最新の保存処理技術についてもじっくりとご覧ください。

